

『やっぱり NST は必要です 純粋に「栄養は大事！」の考えで活動しましょう』

西暦 2026 年は令和 8 年、午年。私は今年、**6 回目の年男**です。6 回目？何歳になる？72 歳ですよ。年取ったなあ。それを受け止めながら、2026 年の元旦を過ごしました。

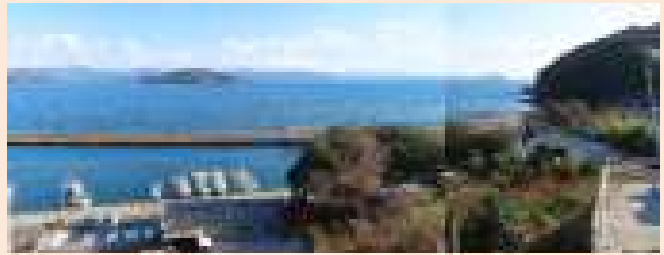
昨年と同じように、元旦は兵庫県西宮市の越木岩神社から夙川に沿って西宮浜まで歩き、そこから西宮神社、広田神社を経由して越木岩神社へ戻りました。25,000 歩ほどでした。おかげで、翌日から腰痛になり、治るのに 1 週間かかりました。『年寄りの冷や水』そのものでした。年賀状はたくさんいただきました。私が送った年賀状は約 270 枚。今年は力を入れて送りました。宛名はすべて手書き、裏にも小さな字でいろいろ書かせていただきました。もう年賀状はいらない、迷惑、と思われた方がいたら、すみません。私は生きています、なんとか元気にやっています、というメッセージです。来年も出させていただく予定です。

年末の紅白歌合戦は見ました。恒例ですから。知らない歌手のほうが多かったのですが、70 歳以上の歌手が 6 人も出演しておられました。みなさん、元気！でも、もう歌合戦という名称はいらないでしょう。男性と女性の戦いではないし、多様性の時代ですから。

1 月 2 日からは大学へ出て来て、いろいろ仕事。大学は 5 日から講義開始。8 日と 9 日は東宝塚さとう病院での外来診察。そして 10 日と 11 日は愛媛へ帰省。雪が降るとの天気予報だったので、雪を心配しながらの運転でしたが、無事、戻ってくることができました。冬用タイヤですが、心配。12 日は成人の日。13 日、14 日と講義。そして、17 日と 18 日は大学入試共通テスト。試験監督の役割を与えられました。待機だったのですが、別室で二人の受験生の監督をする羽目になりました。なんとか、私自身もトラブルを起こさずに役目を果たすことができました。この共通テスト、本当、大変です。こんなややこしいことをせずに一発勝負にしたらいいのに、と思いました。

19 日、20 日、21 日は、臨床医学Ⅱ、臨床栄養学Ⅲ、看護学部の栄養学の試験。いろいろ悩んだのですが、半年間の講義のサマリーを作って渡しました。これをちゃんと勉強したら合格できるから、ということで。これをしなければ、何人を落とすことになるのかと悩んだのですが、**仏の井上**です、結局。さらに、それでも合格点が取れなかった学生には、サマリーの書き写し(かつこ内だけです)を 2 セットやらせて、全員、合格にしました。本当、**仏の井上**です。これでいいのか、悩みはつきませんが、サマリーを必死で勉強してくれたら、それなりに、講義の内容を理解できることになりますから。栄養学部も看護学部も臨地実習が始まります。病院実習では、私が教えた内容が全部役に立つと実感してくれるのではないかと淡い期待を抱いています。淡い・淡い期待です。本当、甘ちゃんですね、私。

1 月は、講演などの仕事は全くなし。だんだん仕事が減って



↑ やっぱ 2026 年の最初なので故郷の海をお見せしないといけません。いい天気でした。気温も高かった。いい写真が撮れました。翌日は、寒くて、雪も降りました。



↑ 2026 年元旦です。まずは越木岩神社へ初詣先を買いに行きました。2026 年、おついでのおついでをお願ひとさせていただきます。今年も無事過ごせますようにとお願ひしました。



↑ 越木岩神社に初詣した後は、夙川に沿って浜まで歩きました。いい天気でした。やっぱり雪はいいですね。穏やかな雪でした。



↑ 西宮浜には、真実で建てられた西宮神社があります。歴史は残っているのですよ。

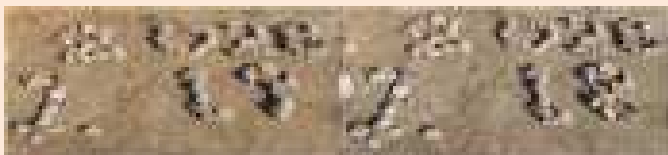


↑ 一番有名な西宮神社です。戎さんで有名です。出店の数がすごかった。もちろん素通りしました。行っただけでした。

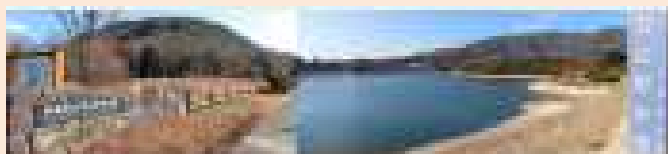
いるけど、これも仕方ないことです。臨床栄養の領域が完全に右肩下がりですから。深く考えると、その原因の一つは、どう考えても日本の国力の低下なんでしょう。医療に必要なお金がなくなってきていて、だから、病院などは大部分が赤字経営。企業の売上も低迷。学会や研究会、講演会をサポートする余裕なんてあるか！ということです。いろんな研究会や学会が消えていきそうです。リーダーズも、今年はいろいろ工夫をしなければなりません。なんとかなるだろうか、心配事だらけです。

世の中の景気は本当に悪いの？プロ野球選手は大リーグへ行ったら年棒は何十億。誰もが大リーグへ行きたがっています。日本のプロ野球はどうなるんだろう、本当に予備校化してしまいます。庶民の生活は苦しいのに、大リーグに行った選手達はすごいなあ、ですね。また、景気がいい話なのかはわかりませんが、大相撲1月場所は懸賞金がものすごく多かったとのこと。何百万という懸賞金を受け取った力士がいるそうです。優勝した安青錦よりも、10勝5敗という低レベルだった二人の横綱はかなりの懸賞金を受け取ったようです。それにしても、日本人力士たちに言いたい、ウクライナから来た安青錦にいろいろな記録を破られてはいけないう。私は安青錦を応援していますけど、日本人力士ががんばれ、今年も言わないといけませんね。

1月の大学の行事としては、共通テストが大変だったけど、無事、終わりました。私は1日だけでよかったのですが、2日もがんばられた先生達、ご苦労様でした。共通テストの2日目は、私は大学構内に入ることができなかったのでも西宮の山側をうろろ。有名な甲山まで行きました。途中、寂しい道になった時、そういえば、東宝塚さとう病院の東野院長が『甲山にクマが出たそうですよ』と言っていたな、と思い出して心細くなりました。クマに遭遇したらお終いです。途中の神社を経由して甲山に上るのですが、どうしようかと迷っていたら、甲山から降りてきたご夫婦に会いました。クマは出ませんか？と聞いたら笑われました。イノシシは出るかもしれませんよ、とのこと。クマじゃなければなんとかなる、と思って甲山に上りました。そういう休日を過ごしました。



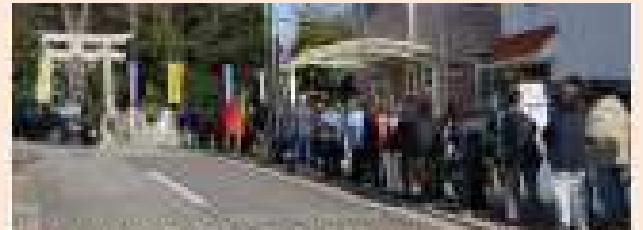
↑ 左の甲山の頂上に上ると、こんなもめが。左の写真をよく見ると、200m以上です。1月17日という素晴らしい日。ここへ来た人が置いてきたら。でも、今日は1月18日だ、ということ。石のように、7を8にしました。じつと見てください。わかる？



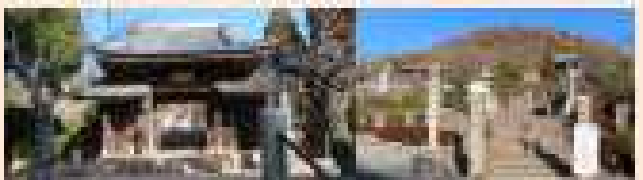
↑ 甲山を降りると北山湖水庫に落ちます。よく見ました。いい天気でしたから、いい気分になりました。なかなかいい景色でした。こんな景色が西宮にあること、知りませんでした。2000mの登山者でした。今回は大した冒険にはなりません。



↑ 広田神社です。阪神タイガースが必勝祈願にお詣りすることで有名です。ここもすごく長い行列でした。本当にすごかった。だから、素通りしました。



↑ 超本願寺に参ると、こんな長い行列。神社の参りにすら入れません。私は：回廊にいたので、今回は参りませんでした。



↑ 共通テストの2日目。千里金堂大学の構内には入れないので、車で通りましたが、長い散歩をしました。省の写真の甲山を目指したのですが、途中の甲山大師、神楽寺（おんのう）に立ち寄りました。ここは、高台にあるので、初日の出を見ることができると人気があるそうです。



↑ 左の長い石段を上ると本堂です。おじいさん（私と同年代？）の方がこの石段を登って、展望台のところで体操をしていました。私？もう、十分の距離を歩きましたので、一休み。



↑ 甲山の頂上にある二等三角点です。意味はわからないけど写真を撮りました。右は『平和塔』です。1956年に西宮市連合婦人会が建てたものです。ギリシャ神話の母子像と平和の女神・ヴィーナス像が彫られています。歴史がある話なんですね。

小越先生：君は今年、2026 年は年男だって？

ゼン先生：はい、そうなんです。6 回目の年男です。還暦が 5 回目ということになるので、6 回目です。

小越先生：若い若いと思っていたら、ずいぶん年取ったんだな。

ゼン先生：本当、じいさんになりました。

小越先生：年男なんだから、ということで、何か、新しいことはやったのか？

ゼン先生：一応、そういうことも考えたんですが、振り返ってみると、昨年と全く同じ行動でした。

小越先生：面白くないなあ。初詣は？

ゼン先生：西宮市内の 3 つの有名神社に行きました。歩いて歩いて、足腰が痛くなるほど、です。

小越先生：ちゃんとお詣りしたんだろうな。

ゼン先生：最初の越木岩神社では破魔矢を買いました。3,500 円もしたんです。毎年、値上がりしています。

小越先生：縁起物なんだから、ケチなことを言いなさんな。

ゼン先生：その通りです。おつりが 500 円だったので、それをお賽銭として入れてお詣りしました。

小越先生：ちゃんと手を合わせたんだな。

ゼン先生：はい。それからは歩いて歩いてだったのですが、西宮神社も広田神社もお詣りの長い列ができていたので、遠くから手を合わせるだけにしました。

小越先生：それではお詣りしたことにならないぞ。もちろん、お賽銭も入れなかったんだろう？

ゼン先生：はい。3 つの神社全部にお詣りして、あれこれお願いごとをしたら、欲張りでしょう？

小越先生：なんだ、その言い訳は。

ゼン先生：すみません。でも、一応、6 回目の年男だから、という新たな気持ちにはなりましたので。

小越先生：そうか。まあいいだろう。しかし、今年はいいことがあって欲しいな。

ゼン先生：いやあ、期待薄だと思いますよ。特に、この臨床栄養の領域は、大変なことになるんじゃないでしょうか。企業からのサポートが無くなって、学会や研究会が運営できなくなると思います。活動できなくなる学会や研究会が増えます。

小越先生：そういう暗い見通しなのか。

ゼン先生：そうですね。明るい見通しは全くありません。診療報酬の問題で、多くの病院は赤字経営です。

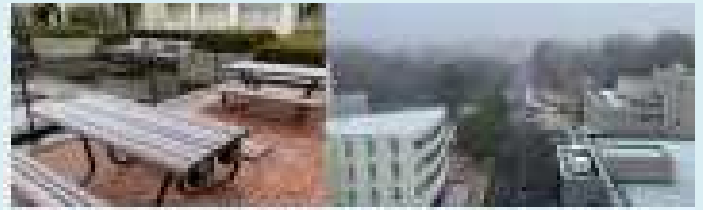
小越先生：そうらしいな。大変なことになっているらしいな。

ゼン先生：この 4 月の診療報酬改定ですが、病院側は 10% 以上の引き上げを求めたのに、やっと 3% の引き上げらしいです。

小越先生：3% か。それじゃあ病院の経営は良くならないな。

ゼン先生：そうですね。間違いなく、なりません。その 3% の引き上げのしわ寄せがどこかに来るんです。

小越先生：その 3% の引き上げに費やすお金をどこから持ってくるか、だな。



↑ 1 月 25 日には、千原金剛大学にも雪が降りました。ベランダに雪が積もっていました。これは積もっているとは言わないと、栗山先生に指摘されたことを思い出しました。雪の量が驚かばっている、という表現でいいのでしょうか。



↑ 松江の中島さんに通っていただきました。いい雪景色の雪道の景色ですね。きれいだなあと私は思っていますが、雪道での生活は大変ですね。



↑ 米子医療センターの角田先生に送っていただきました。『大寒波と言われた割には米子市内の積雪量は 10cm 程度でほぼ生活に支障ありませんでしたが、県東部の鳥取市は 50cm 近く積もって大変だったみたいです（大山は 1m 越え）。昨日から今日にかけて気温が上がったため米子市内はずいぶん雪が溶けてしまいました。当院 8 階からの写真（大山側と日本海側）を添付します。』



↑ 今年の 1 月は大雪で、すごかったとのこと。福井の栗山先生に雪の写真を送っていただきました。この犬の大きさ（30kg）から雪の厚みを想像してください。

ゼン先生：そうです。OTC 薬というのが注目されています。

小越先生：OTC 薬？聞きなれない名称だが。

ゼン先生：over the counter の頭文字をとって OTC です。処方箋無しで薬局で購入できる薬のことです。今までは病院でしか処方できなかった薬を、処方箋無しで購入できるということ。診療報酬としてのカバーが必要ではなくなるんです。

ゼン先生：はい、うれしいことです。それから、雨が少なくて大変だというのも、この1月の特徴だそうです。

小越先生：それはわかった。大変だなあ。ところで、さっき君に聞いた、ちょっといい話はないのか、だけど。

ゼン先生：ちょっといい話ですか。そうですね。昨日、いつものように東宝塚さとう病院で栄養回診をしていたんです。なかなか食欲が出ない患者さんがいました。TPNで維持しながら栄養管理をしているんです。食事摂取量を増やすのに、なんか、いい方法はないかと思ひまして。昼間はTPNをやめよう。夜だけ、12時間で昼間の分も投与するようにしようや。昼間、自由に動けるようにしてあげたらお腹も空いて食欲も出るかもしれないから、と言ったら、病棟の看護師さん、結構、若かったと思うんですが、『サイクリックですね』と言ったんです。

小越先生：へええ、『サイクリック』と言ったのか。

ゼン先生：そうなんです。Cyclic TPNのことなんです。

小越先生：それはわかっているよ。

ゼン先生：東宝塚さとう病院は、栄養回診を週1回、やっています。私が行き始めてからもう13年くらいになります。リンクナース制度をとっていて、各病棟に中心となる看護師さんがいます。栄養委員会もありますし、看護師さん達で栄養の勉強会もしているようです。今回、サイクリックと言った看護師さんは、リンクナースでもなんでもないようです。その看護師さんが「サイクリックですね」と言ったんですよ。それだけのことなんです、やるなあ、と思いました。

小越先生：大したことではないんじゃないか。

ゼン先生：そうかもしれませんが、大したことだと、私は思いましたよ。

小越先生：cyclic TPN って、みんな、知っているだろう？

ゼン先生：先生、認識が甘いですね。相当甘いと思います。

小越先生：そこまで力を入れて、甘い、甘いと言わなくてもいいだろう。大先輩のオレに対して。

ゼン先生：大先輩だからこそ言わせていただきますが、先生は日本の臨床栄養に関するレベルの低さがわかっていない、現状が把握できていないと思います。

小越先生：そうなのか？

ゼン先生：以前、「診療科や個人による差はありますが、医師の臨床栄養に関する知識レベルについて、どう思っていますか？」という調査をやったと言ったでしょう？

小越先生：あああ、あの話か。「医師の知識レベルは低い」と3分の2の人が答えたんだっとな。

ゼン先生：そうです。そういうレベルなのですから、サイクリックを知っている医師はどれくらいいるのでしょうか。

小越先生：そうか。知っている医師は少ないか。

ゼン先生：相当低少ないと思います。

小越先生：相当少ないのか。

ゼン先生：はい。Cyclic TPN なんという用語を聞いたことがな



↑ 小浜病院の林先生に送っていただきました。1月31日の敦賀の雪です。非常にきれいな、夜の雪景色です。除雪の様子も送っていただきました。敦賀の新幹線の駅の写真もあります。雪国の生活を知らない者にとっては、驚異です。

い医師がほとんどだと思います。

小越先生：実際に cyclic TPN をやっている患者さんなんて見たこともないんだろうか。

ゼン先生：そう思います。どのくらいの医師が知っているのか、全国的に調査してみたいですね。

小越先生：TNT を積極的にやっていた頃は、そういう調査もして、現状を把握できていたのになあ。

ゼン先生：そうですね。2001年に最初の調査をして、2003年にはTNT受講者を対象とした調査をやらせていただきました。

小越先生：そうだったな。TNTを受講することによって、こんな風に変化した、こういう効果があったというデータを示してくれたな。

ゼン先生：はい。先生のおかげで、やらせていただきました。もちろん、データはすべて論文として発表しました。

小越先生：そうだったな。オレも共著者に入れてくれていた。

ゼン先生：それは当然です。先生の許可がなかったらあの調査はできなかったんですから。

小越先生：でも、調査内容、調査結果の集計、論文執筆はすべて君が一人でやったんだろう？

ゼン先生：そうです。

小越先生：大変な仕事だったはずだ。

ゼン先生：でも、やりがいのある仕事でしたので、苦でもなんでもありませんでした。

小越先生：そうか。大事な仕事をやり遂げたという気持ちになれたんだろう？

ゼン先生：なれました。そして、その時の経験から、JSPEN 内にサーベイランス委員会を立ち上げて 2014 年にも全国調査をやりました。

小越先生：そういう仕事は極めて大事なのに、なあ。現状を把握しないと、対応できないんだから。

ゼン先生：そうです。まあ、リーダーズとして、私が細々とアンケート調査なんかはやっていますけど。

小越先生：それはわかっているよ。でも、もっと大きな調査が欲しいな。日本の臨床栄養に関する知識レベルが知りたい。cyclic TPN を知っていますか、なんて、知りたいなあ。

ゼン先生：知りたいですね。小さな調査しかできませんが、また、やります、私が。協力してくれる仲間がいますから。

小越先生：そうだな。やろう。一応の傾向は把握できるだろうから、な。

ゼン先生：はい。ところで、話は戻りますが、看護師さんがサイクリックと言ったという話なんです。

小越先生：そうだったな。どうやって勉強したんだろう。

ゼン先生：どうやって？本当、どうやって、でしょうか。

小越先生：東宝塚さとう病院の看護師の岡崎さんが指導したんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれませんね。いろいろ勉強会をやっていますから。

小越先生：東宝塚さとう病院の NST は看護師が中心なのか？

ゼン先生：中心は誰か、ということはよくわかりませんが、回診のメンバーは、私と、看護師の岡崎さん、牧野さん、臨床検査技師の岩佐さん、理学療法士の田原さん、管理栄養士の北里さんか吉良さん、そして、時間がある時だけになります、薬剤師の大口さんです。薬剤師さんが足りなくて大変なんだそうで、だから、時間を調整しながら参加してくれています。

小越先生：病院勤務の薬剤師さんが不足しているって、結構大変な問題らしいな。

ゼン先生：そうらしいです。調剤薬局などのほうが人気だそうです。何のために薬学部を 6 年制にしたんだ、なんていう話もあるらしいです。

小越先生：そうか。残念な話だな。

ゼン先生：大体、このメンバーで、栄養回診をします。そうそう、最近、摂食嚥下認定看護師の高橋さんが一緒に回診してくれることになりました。

小越先生：スタッフとして、完璧じゃないか。

ゼン先生：そうです。病棟へ行くと、『栄養回診で一す』、という掛け声がかけられて、担当の看護師さんと一緒に病棟内を回診するんです。看護師さんが現状というか病状を説明してくれて、問題点は何か、どういう方針にするのか、という話し合いをします。

小越先生：なるほど。それに君が答えを出すのか。

ゼン先生：答というか、こういう風にしたらどうかなあ、という



↑ 帰省した時、松山市で開催されていた、佐伯矩企画展示会に行きました。結構、寂しいところにありました。愛媛人物博物館です。駐車場から登っていく階段が急で、怖い！会場には誰もいませんでした。受付の人がいただけ。いろいろ漢字『栄養』について話をしようと思ったのですが。私だけ。帰りにオフィスで展示内容が掲載された本と、愛媛県ゆかりの人物達の本を購入しました。

ことです。回診前に岡崎さんと管理栄養士さんが回診する患者さんの状態を把握してくれているんですよね。そして、病棟の担当看護師さんと細かい点まで議論してくれます。静脈栄養と経腸栄養に関しては、私が結論を出すようにしているんですが、食事の問題になると、看護師さんと管理栄養士さんにおまかせですね。食べられるかどうか、そういう問題になると、理学療法士の田原さんの意見も聞きます。理学療法士の田原さんも、非常に深く患者さんの状態を把握しています。

小越先生：へええ、そうなのか。

ゼン先生：理学療法士さん達のレベルもものすごく上がっていると思います。リーダーズでの発表だってすごいですよ。

小越先生：それはオレも感じているんだよ。いい発表もしているし、いい議論もしているなあと感心していたんだ。

ゼン先生：理学療法士さん、作業療法士さん、言語聴覚士さん、みんな、がんばっていると思います。そうそう、この間、言語聴覚士さんの英語訳のことで、総合犬山中央病院の平岡先生に間違いを指摘されました。私、speech therapist と思っていたんです。略語では ST さんですから。

小越先生：やっぱり君は甘いな。言語聴覚士さんは、正式には「Speech-Language-Hearing Therapist」なんだよ。知らなかったのか？

ゼン先生：すみません。情けないことです。

小越先生：まあ、平岡先生に教えてもらって目覚めたんだな。

ゼン先生：そうです。実は、機関誌に投稿されてきた論文でも言語聴覚士：Speech therapist と記載してあったので、ちゃんと直しました。

小越先生：まあ、当然のことだけどな。それで、回診の話が途中になっているけど。

ゼン先生：すみません。管理栄養士さんと看護師さんが経口栄養というか、食事については議論してくれます。補食というか、ONS もちゃんと考えてくれています。経腸栄養は半固形にしてもいいでしょうか、間歇にしましょうか、です。

小越先生：すばらしいじゃないか。

ゼン先生：それから、看護師さんのレベルが上がっているの、経腸栄養の投与速度、製剤についても、看護師さんから提案してくるんです。下痢しているので経腸栄養を変更しましょうか、エレンタールにしましょうか、ネクスス ST にしましょうか、という感じです。静脈栄養も、投与量が少ないんじゃないでしょうか、と提案してくれます。とにかく、これでどうですか、という感じです。

小越先生：君は楽だなあ。

ゼン先生：楽だと言われたらそうなんですけど。さらに言うと、『静脈栄養も経腸栄養も終了ですね。経口栄養でいけるようになったので、栄養回診は終了としましょうか。』なんて言ってくれるんです。



↑ 11月8日、総合管理栄養で作られた朝食を食べさせていただきました。炊き込みご飯、豚肉と千切ゲンダイのバター炒め、キュウリの酢の物、けんちん汁、みたらし団子、でした。朝飯前、たんぱく質25g、糖質40gです。おいしくいただきました。どこに座って食べようかと迷っていたら、河野さん、小越さん、藤田さんがこちらへどうぞ、と誘ってくれました。写真に写っているのは藤本さんと吉野さんです。



↑ 栄養学部では、一人暮らしの学生をサポートするための『100円食堂』を開催しています。何回かなあ。しかし、今回参加した学生は4人だけでした。作ってくださったのは、徳永先生、八木先生、中村先生の3人。栄養学部の先生達も来てください、だったのですが、参加したのは私だけ。合計8人で楽しい食事会でした。私はタダで食べさせてもらうことになるので、奮発して『ハーゲンダッツのアイスクリーム』を買ってきました。8人分、買いましたよ。料理は、もちろん、おいしくて、食べ過ぎました。ありがとうございました。御馳走様でした。



↑ 私が外来診察と栄養回診に行っている東宝塚さとう病院です。心臓血管外科と循環器内科が中心の病院ですが、外科もがんばっています。優秀な外科医、吉川先生がいますから。形成外科の佐藤先生に、顔の皮膚腫瘍を切除していただきました。Seborrheic keratosis、脂漏性角化症でした。先日、麻酔科の安部先生に、愛媛県八幡浜市のちゃんぽんをほめていただきました。うまいな、長崎のちゃんぽんより上だな、でした。田舎、田舎と馬鹿にされいて、初めて褒めていただきました。うれしかった！



↑ 東宝塚さとう病院の栄養回診です。メンバーが真剣に議論している時に、私がこっそりと撮りました。食事内容についての検討だったように思います。私は役に立ちませんから。和気藹々と楽しい回診でもあります。回診は楽しく、しかし真剣に、です。

小越先生：本当にすばらしい。NSTの本質を理解しているんだな、スタッフ全員というか、病院として。

ゼン先生：そうですね。栄養回診が終了しても、食事のことが問題になったら管理栄養士さんと相談していますから。

小越先生：すごいな。

ゼン先生：それから、胃瘻を造設して、経腸栄養が安定した。この患者さんは栄養回診を終了にしていって、と返ってきます。要するに、安定した経腸栄養は自分で管理できます、ということなんですよ。

小越先生：いいシステムになっているじゃないか。NST制度はどうなっているんだ？

ゼン先生：加算は申請していません。

小越先生：え？ボランティアなのか？

ゼン先生：そうです。理事長の佐藤先生が、同大第一内科の私の後輩で、臨床栄養の重要性をよくわかっていてくれるので、栄養回診を応援してくれています。病院内で確立しています。

小越先生：NST加算申請のために栄養管理内容がダメになってきている施設が多いと聞いているが。

ゼン先生：東宝塚さとう病院は、純粋に「栄養は大事！」という考えで栄養管理、そしてNST活動をしているんです。

小越先生：オレがJSPENの理事長の時にNSTを全国に広げようという活動を始めた時の考え方だな。

ゼン先生：そうです。NSTの本来の考え方で活動内容を実践しているんです。

小越先生：すばらしいじゃないか。2026年の最初に、いい話を聞かせてもらったよ。東宝塚さとう病院の方々に、応援していると言ってくれよな。

ゼン先生：ありがとうございます。伝えます。みんな、さらにやる気が出ると思っています。



3月7日と8日に犬山市で開催する第19回リーダーズのポスターです。↑総合犬山中央病院の広報の高井さんが作ってくれました。この「学会は議論の場!」という文字がすばらしいですね。バックに国宝犬山城がさりげなく、です。広報のプロの方だそうです。実は、リーダーズでの教育講演をお願いしています。専門家の方の話を聞いたことはありませんか？私も興味津々です。スライドの作り方も教えてくれるはずですよ。

それから、残念ながら、今回はランチョンセミナーはありません。ランチョンセミナーをしてくれるスポンサー企業がありません。だから、お弁当はありません。各自で、会場に入る前に食べてください。2日目は、会が終わってから食べてください。申し訳ありません。こういう事情です。

今回も赤字で運営することになるので、是非、大勢の方に参加して欲しい。リーダーズのような弱小学術集団は、みんなの力で維持しようとしないと、つぶれます。残念ですけど、でも、中身は充実させましょう。

【今回のまとめ】

1. 臨床栄養の領域の右肩下がりを、今年はなんとかしたいけど、無理でしょうね。企業からの学術活動へのサポートも激減して学会や研究会の開催が難しくなりますから。
2. 日本全体の経済的問題や政治的問題が大きく影響しているのでしょうか。消費税問題は、もっと大きな視点で考えて欲しい。医療が動かなくなってしまうからです。
3. Cyclic TPNを知っていますか？実施したことがありますか？こういうTPNの方法があることも知っておいて欲しい。
4. 東宝塚さとう病院では、スタッフの栄養管理に関する関心も高いし、知識レベルも上がっています。NST加算は申請していませんが、純粋に「栄養は大事!」という考えで栄養管理・NST活動を実施しています。
5. NST加算も大事ですが、大事なのは栄養管理の中身だということを、もう一度考えましょう